

真に民主的な労働運動を
不断に追求し、働く者と
家族の幸せ、JR産業の持
続的発展を実現しよう!



JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10
東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590 (JR) 057-7848
FAX (NTT) 03-3270-4429 (JR) 057-7849
1部20円 (但し組合費に含む)
●発行者 荻山市朗 ●編集者 今井孝治

facebook

JR連合

twitter

JR連合

第32回中央委員会 「JR連合ビジョン」の実践を通じて組織強化を図り JRで働くすべての仲間のJR連合への総結集を図ろう



高松の地で開催された第32回中央委員会は2020春季生活闘争方針や「JR連合ビジョン」を承認する重要な場となった

2020春季生活闘争方針決定

JR連合は2月5日、JRホテルクレメント高松において第32回中央委員会を開催した。

中央委員や特別中央委員など総勢200人が参集し、安全の確立、2020春季生活闘争勝利、「JR連合ビジョン」の実践を通じて組織強化・拡大、政策課題解決などを柱とした当面の活動方針を、10人の委員からの方針を力強く補強する発言を受け、真摯な討議を経て満場一致で決定した。

なお、委員会には新たにオブ加盟した「奈良ホテル労働組合」の乾陽介委員長、久米卓書記長が出席し、JR連合への加盟証書が贈呈された。乾委員長からは、ともに運動を展開させていく決意が述べられ、会場からの盛大な拍手で迎え入れられた。

委員会は、地元の単組を代表した大谷清副会長（JR四国労組執行委員長）の開会挨拶で始まり、吉田春菜中央委員（JR九州労組）を議長に選出し、議事が進められた。冒頭、執行部を代表して壇上に立った荻山市朗会長は、「JR産業が社会の変化に対応して労使の持続的な発展を築いていくためには、JR連合の組織と運動を磨いて足元を固

め、組合員・会社・社会から信頼される運動を実践するとともに、JRグループ、JR産業に働くすべての仲間の総結集をめざしていく」と決意を語った。また、直面する諸課題について提起し、真摯な議論を要請した。

今井孝治企画部長より第28回定期大会以降の活動経過を報告した後、尾形泰二郎事務局長より、2020春季生活闘争方針を提

起するとともに、関係主体との総対話行動を経て策定した「JR連合ビジョン」の確認を要請した。これに対して、中央委員10人から活動方針を補強肉付けする質疑があり、執行部各担当が答弁した後、尾形事務局長が総括答弁を行った。スローガン案、2020春季生活闘争方針をはじめとするすべての活動方針案が満場一致で承認され、委員会宣言案を採択した後、荻山会長の団結ガンバローで委員会を閉会した。

具体的な2020春季生活闘争方針は、JR各単組は「月例賃金6000円以上の引き上げ（そのうち純ベア3000円）」の確保を前提に、月例賃金の確保を前提に、月例賃金6000円以上の引き上げ（そのうち純ベア3000円）を目安とし、定昇がない場合は月例賃金総額の10500円以上の引き上げ（そのうち定期昇給相当分4500円、純ベア3000円）を目安に引き上げる」として、月例賃金の引き上げにこだわって取り組む。あわせて、すべての労働条件等について点検し改善を図る総合生活改善闘争を展開し、JR産業で働くすべての仲間の労働条件向上・離職防止にむけた取り組みを強化する。



スムーズな議事進行で女性参画への想いを示した吉田議長（JR九州労組）



新規加盟した「奈良ホテル労働組合」



安全の確立

本年4月25日で福知山線列車事故から15年が経過する。事故を決して忘れず、すべての組合員が安全確立のためになすべきことをやり切る決意で日々の仕事や組合活動に臨むよう確認し合いたい。

昨年の大会以降、JR各社で2件の死亡労災が発生したほか、人命を失ってもおかしくない重大労災も相次いでいる。職場実態や働く者の意識に踏み込んだ実効ある対策を講じることが必要である。そのためには、何よりも現場起点のボトムアップ型の取り組みが重要であり、労働組合こそがその役割を果たさなければならない。「ビューマンエラーは結果であり原因ではない」「安全は絶対に譲らない」との理念に立ち、お客様の安全はもろろん、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の完遂にむけて全組合員が取り組むことを要請する。

会長挨拶 (要旨)

JR産業と働く者の持続的な発展を

会長 荻山市朗

わたり安心、意欲、希望を持てる環境を築くために、賃金はもちろんのこと、各種労働条件の改善、働き方改革、多様な仲間が活躍できるダイバーシティの推進、福利厚生の実施など、中長期を展望し、組合員の視点に立った実効性のある総合生活改善闘争に取り組む。

3つ目として、グループ会社、さらに協力会社に働く仲間の地位の向上を訴える。グループ会社、協力会社がJR各社の経営の根幹を支えているが、そこに働く仲間とJR社員との賃金や労働条件には大きな格差が存在している。各グループ労組はJR連合が「中期労働政策ビジョン」で示す目標値を参考に賃上げや総合労働条件改善の議論を進めるとともに、エリア連合と一体となってグループ経営全般の問題についても踏み込んだ協議を深めるよう要請する。

一方で、JR産業が社会の変化に対応して労使の持続的な発展を築いていくために、他

単組と組合員が丸となって職場からの運動を進め、ベアを軸に納得できる成果を勝ち取るとともに、連合が提起するように歪んだ分配構造の転換につなげ、JR連合の役割や意義を示すことのできる春季生活闘争の展開を要請する。

■政策課題の解決
人口減少、少子高齢化、地方の過疎化、労働力不足、技術革新など取り組みを展開するために、各単組との対話を重ねて策定した「JR連合ビジョン」を本委員会提起する。

JR連合の有用性を発信し、JR各社、そして社会にも認識いただく取り組みを展開するために、各単組との対話を重ねて策定した「JR連合ビジョン」を本委員会提起する。

JR連合における労使関係の意義と役割、労働組合がなすべきことなどをまとめている。各単組はこの理念を共有し、組合員に信頼される魅力ある組織と運動の充実にむけて活用するよう要請する。そして、JR連合に加入していない仲間や会社側にも積極的に訴え掛け、働く者の総結集を目指していくこととする。

各組織を代表して活動方針を補強

菊池中央委員「JR東海ユニオン(青年・女性)」

・今中央委員会前に開催された女性役員意見交換会に参加し、有意義な対話ができた。系統毎に女性役員が交流を図れる場作りも検討してもらいたい。

池田中央委員「JRユニオン」

・昨年の台風21号の水害では、長野県岡谷市で新幹線10編成が水没した。オリピック・パラリンピックを控え、臨時列車の確保が問題となっている。この問題を労使で共有し、一体となって乗り越えていく。

園木中央委員「JR北労組」

・昨年の7月から12月にかけて10人の加入があり、当該支部を中心に、日頃の世話役活動の成果だと活気が出てきている。しかし、北鉄労の一般組合員の中には、北鉄

和田中央委員「貨物鉄産労」

・「JR連合ビジョン」にある通り、信頼できるパートナーの存在は極めて有益であり、持続可能な経営に資するものだと、2020年春季生活闘争を通じて、労働組合の存在意義を訴え、組織拡大につながることを会社に訴えていく。

松原中央委員「JR西労組」

・福知山線事故から15年、「JR西労組安全宣言」策定から5年という機を捉え、3月にJR西日本グループ「安全考動計画2022」に対する検証アンケートを、グループ労働

丸山中央委員「JR東海ユニオン」

・安全は労使の最重要課題として機関会議や総対話行動などあらゆる機会で行ってきたので、JR東海連合加盟単組との情報交換を密にしていきたい。

森安中央委員「JR四国労組」

・安全について、昨年10月に高松市で開催されたJR連合「第11回安全シンポジウム」には多くのJR四国労組組合員が参加し、死亡事

木村中央委員「JR九州労組」

・安全の確立にむけ、現場における安全衛生委員会の充実と強化、JR九州連合で開催している「安全ディスプレイ」の深度化に取り組んでいく。

西原中央委員「JR西労組(自動車)」

・乗務員不足の原因は、長時間労働、低賃金であり、労働条件の改善、公共インフラとしての魅力や社会的地位の向上が必要。

火野宮特別中央委員「JR東海連合(グループ)」

・離職の増加により人手が不足し、過重労働が常態化している。2020年春季生活闘争にむけ、まずは窮状を共有したい。その上で、

菊池中央委員「JR東海ユニオン(青年・女性)」

・今年中央委員会前に開催された女性役員意見交換会に参加し、有意義な対話ができた。系統毎に女性役員が交流を図れる場作りも検討してもらいたい。

池田中央委員「JRユニオン」

・昨年の台風21号の水害では、長野県岡谷市で新幹線10編成が水没した。オリピック・パラリンピックを控え、臨時列車の確保が問題となっている。この問題を労使で共有し、一体となって乗り越えていく。

園木中央委員「JR北労組」

・昨年の7月から12月にかけて10人の加入があり、当該支部を中心に、日頃の世話役活動の成果だと活気が出てきている。しかし、北鉄労の一般組合員の中には、北鉄

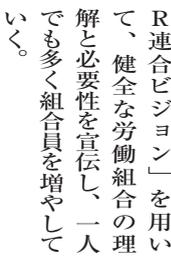


真剣に討論に参加する中央委員・傍聴者

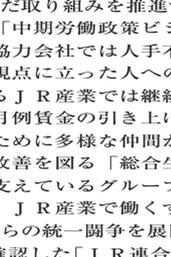
基本組織からもグループ労働組合員への声掛けに協力願いたい。



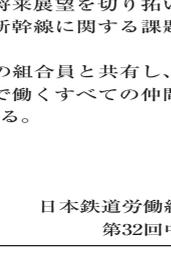
揺が広がって、離職率も上がる。管理職が説明できるほど理解しているか疑わしい。JRユニオンが組合員を守る運動を築き上げていく。



・「JR連合ビジョン」にある通り、信頼できるパートナーの存在は極めて有益であり、持続可能な経営に資するものだと、2020年春季生活闘争を通じて、労働組合の存在意義を訴え、組織拡大につながることを会社に訴えていく。

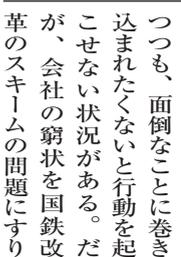


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

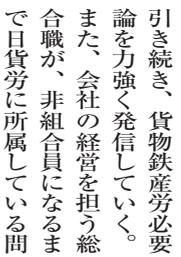


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

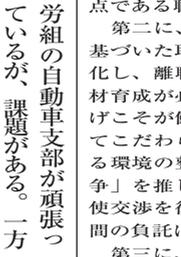
自立経営を実現できるよう、足元の課題解決に組織を挙げて取り組む。



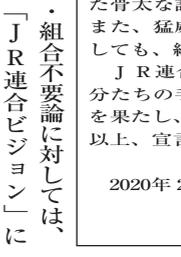
しかし、現状はそうなっていない。改善基準告示の問題もあるが、過度な規制緩和から新規事業者が参入している根本を見詰め、



・「JR連合ビジョン」にある通り、信頼できるパートナーの存在は極めて有益であり、持続可能な経営に資するものだと、2020年春季生活闘争を通じて、労働組合の存在意義を訴え、組織拡大につながることを会社に訴えていく。

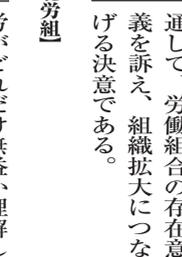


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

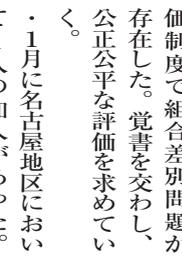


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

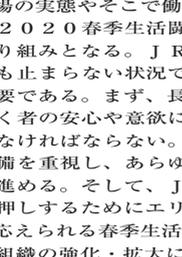
・「JR連合ビジョン」にある通り、信頼できるパートナーの存在は極めて有益であり、持続可能な経営に資するものだと、2020年春季生活闘争を通じて、労働組合の存在意義を訴え、組織拡大につながることを会社に訴えていく。



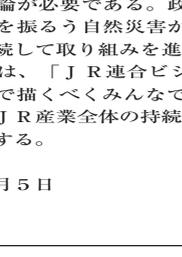
・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。



・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

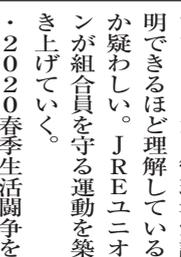


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

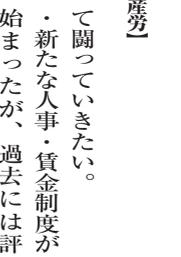


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

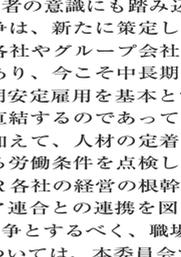
・「JR連合ビジョン」にある通り、信頼できるパートナーの存在は極めて有益であり、持続可能な経営に資するものだと、2020年春季生活闘争を通じて、労働組合の存在意義を訴え、組織拡大につながることを会社に訴えていく。



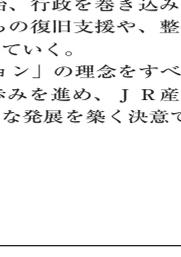
・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。



・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。



・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

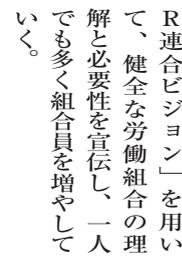


・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

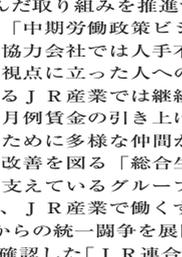
・「JR連合ビジョン」にある通り、信頼できるパートナーの存在は極めて有益であり、持続可能な経営に資するものだと、2020年春季生活闘争を通じて、労働組合の存在意義を訴え、組織拡大につながることを会社に訴えていく。



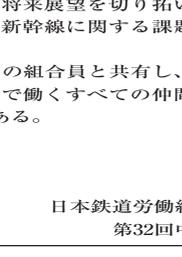
・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。



・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。



・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。



・1月に名古屋地区において、近年、要求スタイルが産業界によって異なっているが、今後とも産別も産別も一体となっていく。

来はない。労働者をまとめることができるのは健全な労働組合であり、「JR連合ビジョン」を用いて、健全な労働組合の理解と必要性を宣伝し、一人でも多く組合員を増やしていく。



（2項より）
の総結集にむけた運動姿勢や考え方がわかりやすくまとめる。とめられており、これから取り組んでいく。民主化の運動

【執行部答弁要旨】委員の発言に想いを重ねる

今井企画部長
（広報）男女平等担当

「JR連合ビジョン」を活用して労働組合の必要性を訴えかけていくという発言を多くの方からいただいた。想いは同じであり、受け取る側が誰なのかという違いを見定めながら必要な器材を作成し、ともにPR活動を行っていきたい。



法政大学の藤村教授に後押ししていただき、自信を深められる内容となっている。ホームページに掲載しているのでもまだ読んでいない方はぜひ確認してほしい。また、SNSも含め「JR連合NEWS」をかなりの頻度で発信している。各組織内で共有を促すこともしていきたい。

中山組織部長

（政治担当）

・民主化当該単組からそれぞれ決意を述べてもらった。JR東日本については、さらなる組織分裂でただでさえ先鋭化している組織がさらに先鋭化する危険がある。また、職場には分裂に対する混乱もあって西岡研介氏の「トラ

ジャ」も多くの書評で取り上げられており、北鉄労にも動揺があるのではないか。組織戦略を練って取り組みを進めていかなければならない。JR貨物については、総合職に関する発言もあつたので、これまでに取組んでいなかった新採用時の行動も検討していく必要がある。また、各地協においてロジ労組との交流も深められており、JR連合一体となった組織拡大を進めていきたい。



・政治については、まずはこの間の選挙への協力に御礼を申し上げる。国会議員はもろろのこと、せっかくなのでどうにかして、各単組の労使協議を通じて対策を講じていただきたい。



・JR東海ユニオンの取り組みがJR東海連合の春季生活闘争相場で直接波及するという認識の下、JR全体をしっかりと支える思いを持って粘り強く取り組んでいく。

北村労働政策部長
（グループ担当）
・2020春季生活闘争方針の提起にあつた通り、3つの基調をまずは加盟全単組で共有したい。そして、各単組の労使でも共有していただきたい。JRで働く仲間の労働条件を高められるのはJR連合しかないというところである。その上で如何に離職を防ぐか。JRで働く仲間が退職まで安心して意欲を持って働き続けられる職場環境をどう作っていくのか。各単組の労使協議を通じて対策を講じていただきたい。

中村交通政策部長
（安全担当・自動車）
・安全については、まず事故を風化させない取り組みが重要である。安全対策委員会や研修の場などを通じて語り継いでいくというのをしっかりとやらなければならぬ。また、すべての職場で安全を確立するための示唆に富んだ



も5月に開催するユースラリーでは、JRで働く仲間の輪をしっかりと広げる活動とする。

・自然災害への対応では、鉄道用地外利用に関する検討会が設置された点は成果であり、鉄道軌道整備法改正時の附帯決議にも私たちがいった成果を確認し、私たちの声が国を動かすんだという事実を共有していきたい。

将来を見据えた労働組合が必要不可欠

【総括答弁】

この半年、皆さんとともに全力で突っ走ってきた。私たちはここで留まるつもりはない。今後も険しい山を登り続ける覚悟で運動を進める。



尾形事務局長

私の中には一つの確たる信念がある。将来をしっかりと見据えた、正しい価値観を持った労働組合こそ、JR産業にとって、地域にとって、社会にとつて、そして日本にとつて必要不可欠であるということ。そうした労働組合が私たちの産業を持続的に成長させる。地域や社会を、そして日本を元気にする。JR連合は

このような労働組合を目指してこつてきた。これからは追いつく。「JR連合ビジョン」はその羅針盤となる。

○安全の確立
労働災害は労働組合のない二次下請や三次下請で発生している。確かに事実関係は速

やかに情報展開がなされる。しかし、労働組合が掴むべきは、事象の把握だけではない。事象が発生した会社でどのようなことが起こっているのかである。真因を突き止め、エリア連合とグループ労組との連携や出向組合員との情報交換を行う。

○2020春季生活闘争
2020春季生活闘争において、最も中心に据えるべき課題認識は、JR産業で働くことへの「安心感」を取り戻し、JRで働くすべての仲間の不

安を払拭するというところにある。若者が夢と希望を抱いて自信を持ってJR産業に飛び込んでほしい。そして、一度この産業の門をくぐった仲間が決して道半ばで辞めることなくこの産業で働き続けたい。この決意を全ての加盟単組と共有し、かかる労使交渉に臨んでいただきたい。

○組織強化・拡大
「JR連合ビジョン」を今後は広く知らしめる活動を展開する。今一度肝に銘じるべきは、うちなる組織の強化なくして組織の拡大はあり得ない。JR内に非民主的組織が存在する限り、今後も徹底して推し進める。民主化闘争によりJR労働界の三極構造は

大きく様変わりした。一方で、JR東労組の崩壊により組織拡大の対象者は多様化した。対象者の属性に応じた多角的な戦略が必要なのは言うまでもない。組織拡大に際して私たちが掲げる旗は「JR連合ビジョン」。労働組合の役割、労使関係の必要性を訴えかけ、自信と確信を持って取り組んでいこう。

○産業政策及び政治活動
政策活動にとって本年は非常に重要な年となる。こゝまで蓄養してきたJR連合の真価が問われる。そういう意味で総力戦に臨み、冷静な分析に基づいた提言内容でなければならぬ。沿線人口の減少や少子高齢化等の取り巻く環境や鉄道の将来展望等あらゆる事柄を複合的に兼ね合わせた政策論を練り上げる。

結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。

○最後に
私たち日本人は「対話する

こと」から逃げてはいない。相手の意見に耳を傾け、自分の想いも伝え、お互いが尊重しながら結論を導くというプロセスが「対話」である。こうした対話の繰り返しの結果、多様な価値観が形成され、人は成長していくものである。組合活動は「対話」の連続である。組合活動を通じて骨太な人材が数多く育成されるのである。

荒波の中でも舟を漕ぎ出していきける骨太な人材が必要なのである。私たちは信じる道を突き進み、労働運動を推し進め、そしてJR産業を支える数多くの人材を育成していく。明るい未来を私たちの手で創り出していこう。

私たち日本人は「対話すること」から逃げてはいない。相手の意見に耳を傾け、自分の想いも伝え、お互いが尊重しながら結論を導くというプロセスが「対話」である。こうした対話の繰り返しの結果、多様な価値観が形成され、人は成長していくものである。組合活動は「対話」の連続である。組合活動を通じて骨太な人材が数多く育成されるのである。

結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。

○最後に
私たち日本人は「対話する

こと」から逃げてはいない。相手の意見に耳を傾け、自分の想いも伝え、お互いが尊重しながら結論を導くというプロセスが「対話」である。こうした対話の繰り返しの結果、多様な価値観が形成され、人は成長していくものである。組合活動は「対話」の連続である。組合活動を通じて骨太な人材が数多く育成されるのである。

結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。

結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。

○最後に
私たち日本人は「対話する

こと」から逃げてはいない。相手の意見に耳を傾け、自分の想いも伝え、お互いが尊重しながら結論を導くというプロセスが「対話」である。こうした対話の繰り返しの結果、多様な価値観が形成され、人は成長していくものである。組合活動は「対話」の連続である。組合活動を通じて骨太な人材が数多く育成されるのである。

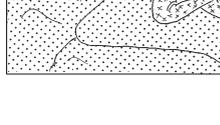
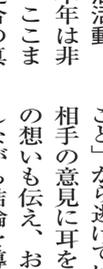
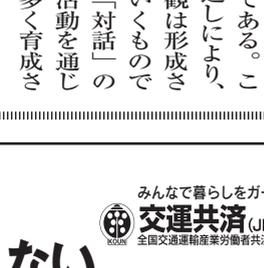
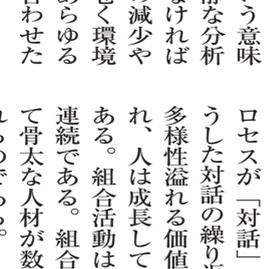
結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。

結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。

○最後に
私たち日本人は「対話する

こと」から逃げてはいない。相手の意見に耳を傾け、自分の想いも伝え、お互いが尊重しながら結論を導くというプロセスが「対話」である。こうした対話の繰り返しの結果、多様な価値観が形成され、人は成長していくものである。組合活動は「対話」の連続である。組合活動を通じて骨太な人材が数多く育成されるのである。

結果として聞こえの良い政策ではないかも知れないが、真摯な検討を通じて「将来にわたるJR産業の持続的成長」をもたらす骨太な政策を皆さんと作る。



交通共済 みんなで暮らしをガード
災害は避けられない。安心はふやせる。
 家族の幸せを災害から守る
火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/入院共済
 契約保険会社：明治生命保険株式会社

JR各単組で委員会を開催 春季生活闘争にむけ意志統一

JR九州労組第32回定期中央委員会 労働組合の必要性を粘り強く訴える

JR九州労組は、2月6日、博多市内にて第32回定期中央委員会を開催した。安全の確立、2020春季生活闘争の取り組み、政策課題の解決、JR連合への総結集にむけた組織強化・拡大などを柱とした当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定した。

冒頭、中原博徳中央執行委員長(JR連合副会長)は挨拶で、「課題を克服していくためには労働組合があつてこそ、そこに集団的労使関係が生まれ働く者の意見や要望が労使協議を通じて形となり、

働く者の権利や生活が守られ、働き甲斐と希望を持てる環境を創り出すことができる。改めて労働組合の必要性を粘り強く訴えていく」と決意を語った。

JR連合からは今井



JR九州労組第32回定期中央委員会



JR西労組第38回中央委員会



JR四国労組第33回定期本部委員会

面部長が参加し、先の中央委員会で決定した活動方針や「JR連合ビジョン」について説明した。

質疑・応答では、2020春季生活闘争にむけた意気込みや会社の効率化施策に対する危機感、組織拡大にむけた想いなどの発言があり、中間答弁を踏まえ、芦原秀己書記長が

「集約答弁を行い、満場一致で承認された。」

その後、委員会宣言を採択し、中原委員長の団結ガンパローで閉会した。

きるよう全力を挙げる」と強く決意を語った。JR連合からは中村交通政策部長が参加し、連帯の挨拶を行った。

議事では、安全の確立、春季生活闘争、民主化闘争、組織課題、政策課題、政治の取り組み、業務課題、コロナウイルスに関する発言などが出された。執行部答弁及び羽野敦之書記長の総括答弁を経て、全議案を満場一致で決定した。

委員宣言を採択した後、団結ガンパローで閉会した。

その後、委員会宣言を閉会した。

採択し、団結ガンパローで閉会した。

その後、委員会宣言を閉会した。

「チーム公共交通」「チーム地域」を実現していくために、今後とも皆様からのご指導を宜しくお願ひ致します。

JR西労組第38回中央委員会 安心して意欲の持てる環境づくりへ

JR西労組は、2月7日、大阪市にて第38回中央委員会を開催した。冒頭、本年4月に発生から15年を迎える福知山線列車事故のご被害者に対して参加者全員で黙祷を捧げた。

執行部を代表して上村良成中央執行委員長(JR連合副会長)が挨拶に立ち、「入社時期や地域によつて安全意識に差が生じている」というアンケート結果に触れ、「教訓化

り進む。さらには、健全で強固な労使関係のもと、職場の実態を把握し、労使協議に反映していくことの重要性と意義を次世代に継承していく」と述べ、春季生活闘争方針をはじめとする諸課題に対して真摯な議論を呼び掛けた。

質疑では、安全の確立、2020春季生活闘争、業務

課題、組織の活性化等について取り組みについて発言があり、各担当からの答弁を満場一致で確認した。

と政所大祐書記長による総括答弁が行われ、活動方針を満場一致で確認した。

議事では、若年・中堅社員の離職による人手不足の実態や政策課題解決にむけた取り組み、処遇改善・組織課題、業務課題に関する要望など多岐に亘る発言があり、嶋田剛好書記長の集約答弁を経て、すべての議案を満場一致で採択した。

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

て「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

た賃金の引き上げやシニア層の働き方に関する意見、自動車支部の状況などの発言があり、中間答弁を経て、園木寛嗣書記長が集約答弁を行い、満場一致で方針を決定した。その後、委員会宣言を採択し、団結ガンパローで閉会した。

JR東海ユニオン第34回定期中央委員会 「ハートフルカンパニー」の実現を

JR東海ユニオンは、2月7日、静岡市内にて第34回定期中央委員会を開催した。来賓として、JR連合国会議員懇談会会長の榛葉賀津也参議院議員(静岡県)が出席、JR連合からは中山組織部長が参加した。

挨拶に立った鎌田茂中央執行委員長(JR連合副会長)は、「事業を支

えているグループ企業を含めた関係会社は、人材不足が深刻化している。グループ全体での労働条件の向上が必要不可欠だ。賃金はもちろん労働条件の向上をめざす総合生活改善にむけた闘いに取り組み、2020春季生活闘争、業務

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

JR東海グループ全体の 繁栄と成長をめざし「ハートフルカンパニー」の実現にむけて組織を挙げて取



JR東海ユニオン第34回定期中央委員会



貨物鉄産労第33回中央委員会

貨物鉄産労は、2月9日、都内にて第33回中央委員会を開催した。

挨拶に立った大杉正美中央執行委員長(JR連合副会長)は、「JR貨物の経営状況を考えれば、3年連続ベア獲得は可能である。ベアは積み重ねて

いくことが重要。また、着実に貨物鉄産労の運動に理解してくれる仲間が増えている。一層の組織拡大を果たしていくために、取り組みを継続しなければならぬ」と呼びかけた。

そして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

地方議員団紹介
(JR東海ユニオン)

愛知県議会議員

河合 洋介 さん



愛知県議会議員(東浦町・阿久比町)の河合洋介です。いつも大変お世話になっております。

私は、現在3期目ですが、議員になる前は、前衆議院議員の伴野豊さんの秘書を務めていました。伴野豊さんは、皆さまもご存じのことと思いますが、JR東海で勤務の後、衆議院議員に就任されました。

議院議員に初当選、5期を務めるなかで、国土交通副大臣、外務副大臣などを歴任され、現在は浪人中ではありますが、常にJR連合の皆さまとともに政治活動を続けられています。私は、その伴野豊さんとのご縁と、私の祖父が国鉄で勤務し、駅長や在来線の指導員などを務めていたこともあり、2015年からJR東海ユニオン地方議員団の仲間に入らせていただき、以来幹事を務めています。

「チーム公共交通」「チーム地域」を実現していくために、今後とも皆様からのご指導を宜しくお願ひ致します。

JR北労組第17回拡大中央委員会 自信と確信を持って組織拡大に邁進

JR北労組は、2月8日、札幌市内において、第17回拡大中央委員会を開催した。

冒頭、昆弘美中央執行委員長(JR連合副会長)は、単独維持困難線区の問題について「北海道全体の活性化・発展を目指す総合的な視点が不可欠である。観光や文化、地場産業の活性化、交流人口の増加等、地方創生を図る

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい



JR北労組第17回拡大中央委員会



JREユニオン第6回中央委員会

JREユニオン第6回中央委員会 イーストイノベーションの実践へ

JREユニオンは、2月10日、都内にて第6回中央委員会を開催した。

来賓として、参院選で支援したUAセンセンの組織内議員である川合孝典参

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい

「職場に理解が浸透しておらず、チェック・提言機能を果たせる労働組合が必要。真のパートナーとして、昨年から導入された新人事賃金制度につい